第六講・詩

一　詩とは何か

くらしの中で、感動したことがらを自分のことばや自分のリズムで短く書き表したものが詩である。必要な言葉だけで感動の高まりを表現することで、自然と詩に感動が生まれてくる。

例　次の詩は、走っている様子を思いうかべながら読むとよい。

びりの　きもち

阪田寛夫

びりのきもちが　わかるかな
みんなのせなかや　足のうら
じぶんの鼻が　みえだすと
びりのつらさが　ビリビリビリ
だからきらいだ　うんどうかい
まけるのいやだよ　くやしいよ
おもたい足を　追いぬいて
びりのきもちが　ビリビリビリ

二　詩の特色と味わい方

・連…一行あけることによって詩をいくつかのまとまりに分けたときの、一つのまとまりを指す。

・表現…詩は、作者の感動したことを短い言葉で表現するために、さまざまなくふうがなされている。

・リズムを味わう

→上の詩では、運動会で「びり」になる気持ちを、「びり」という言葉を生かしたリズムの言葉をくり返すことで表していて、詩にリズムが生まれている。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

一題目　次の詩を読んで、あとの問いに答えなさい。

かぼちゃのつるが　原田（はらだ）直友（なおとも）

かぼちゃのつるが
はい上がり
はい上がり
葉をひろげ
葉をひろげ
はい上がり
葉をひろげ
細い先は
竹をしっかり<u>にぎって</u>
屋根の上に
はい上がり
短くなった竹の上に
はい上がり
小さなその先たんは
いっせいに
赤子（あかご）のような手を開いて
ああ　今
空をつかもうとしている

(1)　この詩のとくちょうをまとめた文になるように、次の□に入る言葉を詩の中からぬき出しなさい。

［□□□□□］という言葉をくり返すことで、［□□□□□□□］がどんどんいきおいよくのびていく様子を表している。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

(2)　――線「にぎって」は、何のどんな様子を表していますか。ふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　子どもたちが、竹をつかんでいる様子。
イ　竹が、ひろがった葉のかげにかくれている様子。
ウ　つるが、竹にまきついている様子。
エ　かぼちゃの実が、竹にぶらさがっている様子。

(3)　この詩で、作者の感動は、どこにいちばん表れていますか。詩の中のひと続きの二行をぬき出しなさい。

---

(4)　詩から受ける感じの説明としてふさわしいものを、次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　重苦しいよどんだふんい気がただよっている。
イ　リズムがあり、たくましさ、力強さが伝わってくる。
ウ　さわやかな朝のような、すがすがしさが表現されている。
エ　生き物へのやさしいまなざしが感じ取れる。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

二題目　次の詩を読んで、あとの問いに答えなさい。

三日ぼうず

丸山（まるやま）　薫（かおる）

あれもこれもと　やりはじめても
つづけてやらねば　三日ぼうずだ
三日のぼうずは　おかしな名だな
どこにいるのか　三日のぼうさん

おーいと　かすかなへんじをしたよ
はずかしそうな　へんじだったよ
オヤオヤ　あれはおなかの中だ
ぼくのおなかに　ぼうさんいたよ

きょうは元日（がんじつ）　ことしのはじめ
コケコッコーの　とりの声きき
初日（はつひ）の光に　<u>こころはさらり</u>
うまれかわった　気持（きもち）になろう

ずるいぼうずを　おいだすために
きょ年のぼうずを　おいだすために
ひとつでいいから　よいことをきめよう
それをかならず　やりとげようよ

ⒸRECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

(1) この詩は、いくつの連（まとまり）からできていますか。漢数字で答えなさい。

［　　］つ

(2) 二連目の説明としてふさわしいものを、次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 動きや様子を表した言葉をくり返して、はずむようなリズムを生み出している。

イ かたかなを使うことによって変化をもたせ、詩に不気味な感じをあたえている。

ウ 「三日ぼうず」を人にたとえながら、楽しく、面白おかしく表現している。

エ よびかけの言葉をアクセントにして、きんちょう感をただよわせている。

［　　］

(3) ――線「こころはさらり」には、作者のどんな気持ちがこめられていますか。次の［　］に入る言葉を詩の中からぬき出しなさい。

［　　］の朝に［　　　　　　　］自分になって、また歩み始めようという気持ち。

(4) 作者の決意が具体的に表れている部分を詩の中から二行でさがし、ぬき出しなさい。

［　　　　　　　　］

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

三題目　次の詩を読んで、あとの問いに答えなさい。

かきの実

与田(よだ)　準一(じゅんいち)

つゆが　しもに変(か)わり、
しもは朝ごとに白くなる。

村のかきの実は、赤くうれ、
赤く、赤くうれ、
低(ひく)いえだから、だんだん、減(へ)っていく。

空は一日、青くすみ、
青く、青くすみ、
からすの群(むれ)が
ゴマをまいたように飛(と)ぶ。

そんな日が続(つづ)き、
同じような日が続き、

こずえに残(のこ)されたかきの実、一つ。

実は赤く光り、
赤く、赤く光り、
冬がきた信号燈(しんごうとう)のように、
村でいちばん早く朝日をあびる。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

(1) この詩にえがかれている季節(きせつ)はいつですか。次の□に入る季節をそれぞれ漢字で書きなさい。

□の終わりから□の初(はじ)め。

(2) この詩は、色をじょうずに使っています。それを説明(せつめい)した次の文の□に入る色を詩の中からさがし、それぞれぬき出しなさい。

かきの実の色である□のくり返しを中心に、しもの□、空の□、からすの黒、さらには、朝日のこがね色の光など、読む人に色を強く印象(いんしょう)づけるくふうをしながらえがいている。

(3) この詩の中で、「からすの群」の飛ぶ様子を表しているのはどの行ですか。詩の中の一行をぬき出しなさい。

□

(4) 作者の感動の中心は何ですか。ふさわしいものを次の中から一つ選(えら)び、記号で答えなさい。

ア 最後(さいご)にたった一つ残って、朝日をあびているかきの実のあざやかな美しさ。

イ 真(ま)っ赤(か)にじゅくしたかきの実を、口にふくんだときのたとえようのないおいしさ。

ウ 早起きをして、朝日をあびながらむねいっぱいに空気をすいこみ、しんこきゅうしたときのすがすがしさ。

エ からすの数も少しずつ減(へ)り、かきの実もどんどんなくなる中で、季節が深まっていくことへのさびしさ。

□

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第六講・確認テスト

次のうち、送りがなの正しいものを選びなさい。

１　みじかい
ア　短　　イ　短い
ウ　短かい　　エ　短じかい

２　かなしい
ア　悲　　イ　悲い
ウ　悲しい　　エ　悲なしい

３　あたらしい
ア　新　　イ　新い
ウ　新しい　　エ　新らしい

４　あかるい
ア　明　　イ　明い
ウ　明るい　　エ　明かるい

５　こころみる
ア　試る　　イ　試みる
ウ　試ろみる　　エ　試こころみる

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第六講　詩

一題目

(1)はい上がり・かぼちゃのつる
(2)ウ
(3)ああ　今
空をつかもうとしている
(4)イ

二題目

(1)四(つ)
(2)ウ
(3)元日・うまれかわった
(4)ひとつでいいから　よいことときめよう
それをかならず　やりとげようよ

三題目

(1)秋・冬
(2)赤・白・青
(3)ゴマをまいたように飛ぶ。
(4)ア

〈確認テストの解答〉
１　イ　２　ウ　３　ウ　４　ウ　５　イ

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。